

高度化と創造・革新のステージへ向かう日本企業のDX —企業IT動向調査からみえてくる現状と課題・さらなる挑戦—

大熊 眞次郎
志村 近史

目 次

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. はじめに | 5. IT人材と組織 |
| 2. IT予算 | 6. IT投資課題の長期トレンドと展望 |
| 3. DXの推進状況 | 7. おわりに |
| 4. システム開発と情報セキュリティ | |

「企業IT動向調査2024」によると、2023年度もIT予算の増加傾向が続いており、企業の成長と収益化に影響を与えている。DXを推進する企業は増加し、クラウド活用を含むIT基盤の効率的運用・保守、セキュリティ強化が重視されているが、IT人材不足は大きな課題である。DX推進による企業価値向上には、現状の可視化、ロードマップ策定、生成AIを含むさらなるデータ活用と合わせ、デジタル人材と組織力の強化が欠かせない。

1. はじめに

日本情報システム・ユーザー協会 (JUAS) では、ユーザー企業のIT部門へのアンケートとインタビュー調査・分析・報告を行う「企業IT動向調査」を毎年実施している。IT投資と利用に関する現況と経年変化を明らかにし、社会・産業・技術動向を踏まえ考察を行う。「ビジネスのデジタル化」「デ

ジタル変革力」などをキーワードに調査指針である重点テーマを設け、IT部門の視点から日本のDXの現状と向かうべき方向性の提言を行ってきた。

本稿では、「企業IT動向調査2024」(2023年度調査、回答企業数976社)で明らかになった、日本企業におけるDXの現状について、調査回答(2023年10月時点)に基づく動向と分析結果を考察する。



大熊 眞次郎 (おおくま しんじろう)

日本情報システム・ユーザー協会 企業IT動向調査 調査部会部会長、カシオ計算機 デジタルイノベーション本部エンタープライズシステム部データマネジメントグループエキスパート。



志村 近史 (しむら ちかし)

日本情報システム・ユーザー協会 企業IT動向調査 調査部会リサーチフェロー。東京科学大学 非常勤講師。野村総合研究所、神戸大学 大学院経営学研究科 客員教授、東京工業大学 大学院社会理工学研究科 連携教授を経て、現職。